

## 令和元年度 全国学力状況調査 国語科分析

### 1 正答率が高かった問題

#### 読むこと

#### (1) 推測される要因・原因

- ・ 不定期ではあるが、新聞のコラム学習を行っている。そこでは、文章にタイトルをつけており、それによって要約する力や、展開に即して情報を整理する力に繋がったと考える。
- ・ 教材文の初読の時点で、段落やまとまりを要約させ、そこから流れを捉えるように、新しい単元に入る際はパターン化を行っている。
- ・ 基礎学の時間や、授業中のコラム学習など、実際に新聞に触れる機会があったことより、コラム記事による問題の対応ができた。
- ・ 朝読書が効果的であった。
- ・ 新聞のコラム学習では、自分の意見(賛成・反対)を字数を定めて書くことを繰り返し行っているため、条件を満たし、自分の意見を書くことができたと考える。
- ・ 手紙や年賀状など、実際に書く体験が、知識として定着した。

### 2 正答率が低かった問題

#### 話すこと・聞くこと

#### (1) 推測される要因・原因

- ・ 情報量の多い問題に、慣れていなかった。または、網羅できていない。
- ・ 話題の方向性を捉えることに課題があると考えられる。
- ・ その発言が、話し合いの場面でどのような役割があるのかが、理解できていない。
- ・ 要約したり、具体的に言い換えたりすることが苦手である。

#### (2) 効果があるのではないかとと思われる対策

- ・ 話し合うことを題材として授業を行ったり、話し合いの流れを経験させていく。
- ・ 授業中のグループ学習が主体的になるように、ある程度パターン化させて増やしていく。
- ・ 授業で学習したことを、自らの体験に置き換える取り組みや、抽象的な概念を、具体的に言い換えるなどしながら授業の振り返りを行う。

#### 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

#### (1) 推測される要因・原因

- ・ 語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解できていない。
- ・ 語を実際に使用する場面が想定できていない。
- ・ 語句については、相手・目的・意図などの場に応じた活用がかかせないが、普段からそのような意識ができずに使用してしまっている。

#### (2) 効果があるのではないかとと思われる対策

- ・ 語の一部を省いた表現について知る。
- ・ 様々な話し合いの場面を設定し、その場にふさわしい語句を使う実践・演習を行う。
- ・ 読書や他人の話をしっかり聞かせるなどして語彙を豊かにする。
- ・ 相手にわかりやすく伝えるために、自分の表現を推敲したり、見直したりする。